



日本家族看護学会

Japanese Association for Research in Family Nursing

*International Exchanges Committee
Newsletter - March 2024 Vol. 1*

■ 委員会だより

(1) 第30回学術集会 国際交流委員会企画「急性期領域における家族の意思決定支援 日本とアフリカの比較から見えるもの」開催報告

国際交流委員では、急性期領域での日本とアフリカの現状や課題を共有し、参加者とディスカッションすることを目的として、第30回学術集会の委員会企画を開催しました。話題提供者として日本から家族支援 CNS の藤井淳子先生、国際家族看護学会（IFNA）のアフリカ支部からは Petra Brysiewicz 先生をお招きしました。藤井先生からは、日本の急性期領域における家族看護について、家族間のコミュニケーションの促しや、医療チーム・家族間の治療や目標の合意形成の難しさ、そして具体的な実践例をご紹介いただきました。Brysiewicz 先生からは、アフリカ諸国の様々な急性期医療の現場で行われた研究をもとに、アフリカにおける家族の定義や家族ケアの独自性や、資源に乏しい多文化環境における家族看護の課題を講演くださいました。当日は現地だけでなくオンラインでも70名を超える多くの方にご参加いただき、質疑応答も交えてディスカッションは大盛況でした。グローバルな視点からさらなる家族看護の実践について学びを深める貴重な機会となりました。



(2) IFNA オーストラリア・ニュージーランド支部（AN 支部）との合同セミナー開催！

2月20日（火）にオンラインにて IFNA の AN 支部との合同セミナーを開催しました。ここでは、本委員会から3つの Small Group から活動報告の他に、AN 支部から下記の2つの発表がありました。当日は総勢41名の参加者があり、発表内容を基に英語で意見を交え、大いに盛り上がりました。

発表1) Dr. Lindsay Smith 看護アセスメントツールと業務

発表2) Dr. Lisa Whitehead オーストラリア・ニュージーランドにおける慢性疾患の現状と課題

■ 活動紹介

(1) 2023年度 Small Group メンバーの活動について

2023年度 Small Group メンバーでの活動は、JARFN 会員15名の参加をいただきました。2023年5月の初回ミーティング以降、参加者は臨床・研究疑問や興味をもとに3つのグループに分かれ、実践家や教育・研究者など様々な参加者で活動を行って参りました。3つのグループは今年度の活動の集大成として、上記の IFNA オーストラリア・ニュージーランド支部との合同セミナーにて下記の研究成果の報告をしました。国際交流委員主催の活動としては今回で終了となりますが、今後もメンバー同士は定期的にミーティングを重ね、それぞれのテーマについて研究を継続していく予定です。

グループ1) COVID-19 感染拡大下における日本の看護職による家族ケアの現状に関する文献検討

グループ2) 健康問題を抱えた外国人を含む家族に対する看護の動向

グループ3) 染色体異常をもつ児への愛着と受容を促進する両親への看護実践プロセス—事例検討から—

■ 世界の車窓から

(1) 17th International Family Nursing Conference(IFNC17)開催概要発表

国際家族看護学会第17回学術集会（17th IFNC）が2025年6月17日～20日にかけてオーストラリアのパースで開催されます。詳細は、随時 JARFN のサイトに掲載していきます。

国際交流委員会メンバー：

● 委員長：本田順子

● 委員：相墨生恵、島田なつき、中口尚始、新家一輝、森崎真由美、山口智治